

クロシジミ

Niphanda fusca (Bremer et Grey)

チョウ目シジミチョウ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

幼虫期にアリと共生するため、分布は局地的で生息環境は限定され、全国的に減少している。県内では、1978年の観察以降は発見されていない。

形態

開張40mm程度の小型種。オスの翅表は光沢のある青紫色で黒色の縁取りがあり、メスの翅表は黒褐色。裏面の地色は、雌雄ともに白色の強いものから褐色がかかった灰白色のものまで見られる。

国内分布

北海道、沖縄を除くほぼ全県に局地的に分布するが、全国的に減少している。

県内分布

生息地は局限され、金沢市犀川ダム周辺と金沢市菊水・堂周辺から記録されているにすぎない。犀川ダム周辺では1957年から1978年にかけて、菊水・堂周辺では1970年に記録され、その後は度重なる調査においても発見されていない。

生態

年1回の発生で7月上旬から8月上旬に見られる。出現期の後半に産卵が見られ、約1週間で孵化、2齢中期までは樹上でアブラムシやキジラミと共生、後にクロオオアリの巣中に入ってアリとともに生活し、翌年6～7月ごろに蛹化するというが、本県での生活史は知られていない。午前中は活動がにぶく、下草に静止しているものが多いが、特にオスは昼過ぎから夕方にかけて活発に飛翔する。

生息地の条件

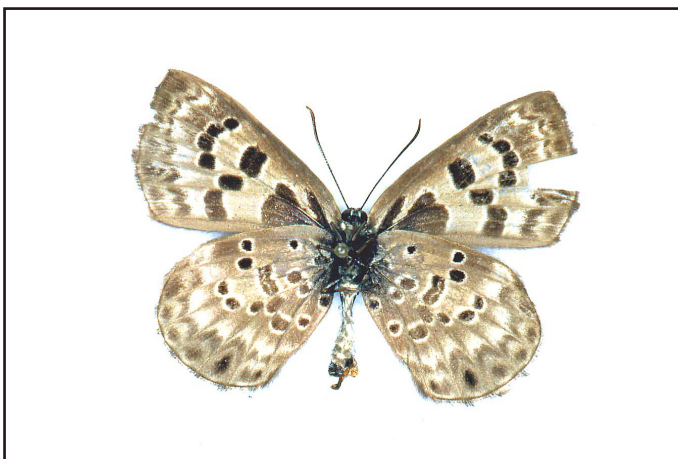
県外では、クヌギ、コナラ、ミズナラなどの疎林、アキグミの生えた草地、ススキを主にした草地、ヌルデ、ウツギなど低木の多い堤防などが、生息地として知られている。いずれも遷移の途中にあり、人手が加わった不安定な環境であるが、アブラムシ、キジラミが多いこと、クロオオアリが生息していることが共通している。

生存の危機

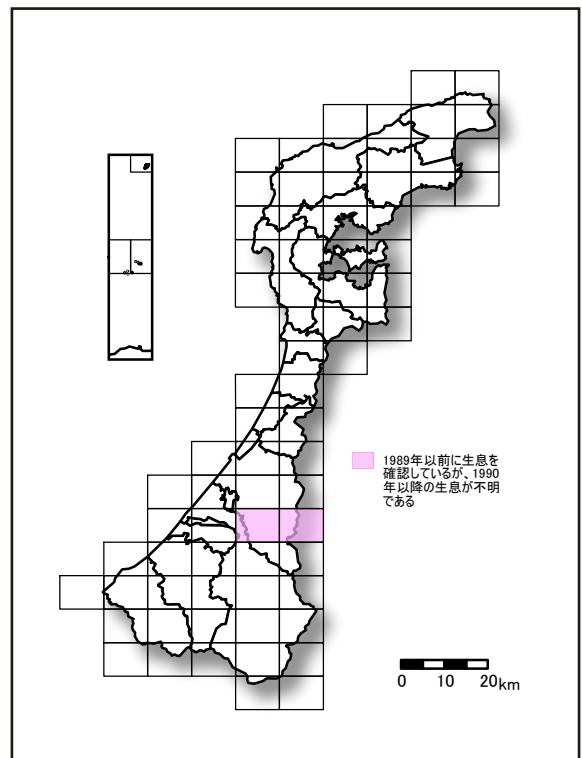
本種は、雑木林が伐られて2～3年経った場所によく観察されている。これは、伐られた木が萌芽し、アブラムシやキジラミが発生し易くなっていること、アリの住み良い環境となっていることが考えられる。雑木林に人手が入らず更新されないことが、本種の減少に影響していると思われ、これは犀川ダム周辺や堂・菊水周辺にも言えることである。(A, B)

参考文献

福田晴夫ほか 1984. クロシジミ. 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ): 216-221. 保育社. 大阪.
吉村久貴 1998. 実在した菊水のクロシジミ標本. 翔, (135): 1-2.



標本提供者: 吉村久貴



県内の分布